

- ・松陰敬仰の気運醸成
- ・松陰精神の継承普及
- ・松陰教学の研究振興

○編集発行 財団法人松風会
〒753 山口市大手町2-18
山口県教育会館内 TEL 0839 (22) 1218



会報

松門

講開祝 第三回松陰研修塾基礎コース 第一回松陰研修塾自主研究コース



財団法人 松風会
理事長 松 永祥甫

第三回松陰研修塾基礎コース

開講式当日は悪天候の中、山口県教育委員会をはじめ各校友会のご来賓のご臨席のもと塾生四十八名の為に新たな出発をみましたことは感謝感激の至りであります。基礎コースは三ヶ年在塾・毎年三回の講座を受講し、修了証書授与となるものであります。塾の起りは平成三年、改めて塾の名称を用いた所以は松陰研究が目的であり、松下村塾に因んだ次第であります。元来塾は学舎と同意義のもので小規模の学業集会所を云い、完備した堂々たる藩校(明備館、弘道館)等と区別されています。

第一回松陰研修塾自主研究コース

本年度から新規事業として、自主研究コースを開講したところ、二十三名という多数の中高及び県市町教委の先生方のご参加を頂きご同慶の到りに存じます。

さて、本コース開設の所以は

既に松陰研究に造詣の深い方々

で、松陰先生の遺文や事績を共同研究し、本県教育の更なる振興に些か寄与することを念願するものであります。期間は三ヶ年、年四回の研修発表の機会を持つものであります。幸い基礎コース同様、極めて勝れた指導・講師団を有していることは、本塾の誇りと存じます。

松陰研修塾の目指すもの

現在科学技術は際限なく発展し、経済も総じて豊かで、教育指向熱は旺盛であります。国際化、情報化時代の中で、日本国又国民の将来展望には幾多の暗雲が漂い、危機要素を多分に保有していることは何人も否定し得ない事実と思えます。

松陰先生は幕末の危急存亡の国情を直視し、自身の使命観に徹して兵学を学び、国防の要を实地踏査で痛感、「敵を知り己を知らば百戦危うからず」で国禁を侵してまでの下田踏海の挙、

幽囚の身となるや、その志を継ぐ奇傑非常の人を起し、奮発震動のための松下村塾教育、東送殉難に当っては一身を抛って大義明分を説述、刑死に際しては留魂録を遺書して後人を奮起せしめておられます。

松下村塾の真髓は「学は人たる所以を学ぶなり。その最も重しとなすものに君臣の義、華夷の弁なり」とあります。つまり学問は人間尊重の根本義を体得することであり、更に当時の国民としての使命を誠に直截簡明に説かれています。

翻って今日の世相を見ますと個性尊重、人権重視の余りか人としての倫理道徳は殆ど無視の感が致します。人々夫れ夫れの自意識活動、千差万別かくては万人共通の目的の人間幸福享受など思いもよらないことになりましょう。

常に国を思う心、人倫の道を実践された松陰先生三十年の生涯の何れの点を取り上げても、激動の今日社会に生活している者に、無限の示唆を与えて頂けます。

この上は、本研修塾活動を通じて、塾生各位の一層のご研鑽ご活躍を切望致します。



第1回松陰研修塾自主研究コース



第3回松陰研修塾基礎コース

松陰研修塾の開講を祝う



山口県教育委員会
教育長 上野孝明

第三回松陰研修塾基礎コース並びに第一回松陰研修塾自主研究コースの開講式が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

築く子供たちに、「夢と希望を抱かせ、自己実現のための豊かな知恵を身につけさせていく教育」を推進しております。

この講座を受講される皆様には、日々の教育活動に御多忙な中を貴重な時間を活用して、これから三年間の研修に挑戦される所であり、その御熱意に対し、深く敬意を表する次第であります。

この基本目標実現のためには、本県教育の礎をなす防長教育のよき伝統を現代に生かし、「山口県らしい教育」の一層の具現化を図ることの重要性を痛感しているところであります。

さて、二十一世紀を目前に控え、我が国の社会は大きく変化しており、このような変化を踏まえた新しい時代の教育の在り方がこれまで以上に強く問われております。

財団法人松風会におかれましては「松陰先生の遺徳と、その精神の普及振興を図り、それを現代に生かす」との理念のもと広く活動されておられますことは、誠に意義深いものがあり、この成果に心から期待を寄せているところであります。

このような中、県教育委員会におきましては、「夢と知恵を育む教育の推進」を基本目標として掲げ、次代を拓き

折りしも歴史的に大きな転

換期である今日、明治維新という未曾有の変革期に新しい時代を切り拓く先鞭をつけたその遺徳を学ぶことは、国際化、情報化、高齢化等の現代的課題へ対処していくためにも大いなる知恵と勇気が喚起されるものであります。

また、このことは、県をあげて推進している生涯学習の振興にも大いに寄与するものと確信している次第であります。

どうか、松永理事長さんをはじめ、塾生の皆様方には、今後ともさらに研鑽を積まれ、その成果の普及啓発に努められますとともに皆様方の御健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



松下村塾

第三回松陰研修塾基礎コース入塾生紹介

祝開講 第三回松陰研修塾基礎コース



山口県小・中・高等学校校長会代表
山口県 小学校 校長 会
会長 見 好 豊

台風八号によって一ヶ月遅れの開催となりました第三回松陰研修塾基礎コースの開講式がまた台風九号の接近という中で、県下各地より四十八名の先生方が参集され、ここに盛大に開催されますことを小・中・高等学校校長会を代表しまして心よりお祝い申し上げます。

さて、神戸における中学生による殺害事件はと世間に大きなショックを与えた事件はありません。事件の全容が解明されない段階での軽々たるコメントは差しはさむ訳にはいきませんが、かけがえのない一人一人の命を大切にすることを子供の魂の中にしみわたらせる「心の教育」をもっともっと充実させる必要性を痛感しました。そこで思いは松陰先生にたち帰えるのです。

「凡そ生まれて人ならば、宜しく人の禽獸に異なる所以を知るべし」という松陰の道義が今ほど大切な時はないと考えております。又、「父はおごそかに母は親し」本来の家庭教育を復興させなければなりません。

このような松陰の生き方や感受

性を二十一世紀を担う子供たちにとっての教育に携わる者として大きな命題であり使命であります。

そのささやかな試みの一つとして、私は六年生に「松陰の言葉に学ぶ」という授業実践をしております。松陰撰集の中から自分にとって好きな言葉は子供にとっても好きな言葉であるという身勝手な判断基準で十の言葉を選択し、子供と共に何度も声に出して朗唱し、その意味の説明をするという極めてシンプルで、押しつけがましい授業であります。

授業後の子供の感想から強く思ったことは松陰の言葉は時代は隔っていても現代の子供の感性にピッタリと波長がよく合うということです。例えば、

- ・松陰本人の気持ちが一言一言に表わっていて、すごくよい
 - ・短い言葉で表わされているが、とても深い意味があり、すごい
 - ・なんか松陰さんの強い思いが胸の中に伝わった気持ちでした。
- 等々子供の声から判断できます。

このまま、手をこまぬいている

と松陰は次第に忘れ去られた存在になりはしないかと危惧しておりましたが、子供たちは松陰をこく自然に受け入れるすばらしい感性を持っていくこと、また、松陰の簡潔で美しい言葉は子供の心を感動させずにはおかない魅力というか吸引力をもっていることがよく分かり大きな自信となりました。

今、山口県においては新しい教育ビジョンが策定されようとしていますが、吉田松陰の教学精神はその根幹をなすものであり、我々が二十一世紀に受け継ぎ、語り継ぎ育んでいかなければならない山口県はもとより日本の精神的遺産であると考えます。吉田松陰撰集はその宝庫となる書物であると確信しています。

とくに、正義感、勇氣、公を大切にする心、郷土愛、愛国心、ひきょうを憎む心、他人の不幸への敏感さといった心情を松陰の言葉から感じ取ればと願うものであります。

どうか三年間にわたる会員相互の研修の深まりの中から二十一世紀を生き抜く子供たちの心に松陰が生きて働く道を模索していただければと思っております。

終わりになりますが、本研修塾のますますの御発展と会員の皆様方の今後の御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

志を立てて以て万事の源と爲す

塾生代表の辞



第三回松陰研修塾基礎コース
萩市立明倫小学校
梅地 信 吾

第三回松陰研修塾基礎コース受講にあたり、塾生を代表して研修への決意を述べさせていただきます。

本日は松永理事長様、山口県教育委員会教育長様、山口県小・中・高等学校校長会長様、並びに指導者の先生方には、

台風接近という悪天候のなかで、私たちのためにご列席下さいまして誠にありがとうございます。更に先程はお祝いのお言葉や励ましのお言葉を賜りましたことに対し、心から厚くお礼申し上げます。

さて、私の勤務しております萩市では、学校教育基本方針を次のように示しております。

「教育尊重の伝統は、萩市の誇りである。萩市の学校教育

育は、「至誠」を基調に、藩学明倫館の「成徳達材」や松下村塾の「師弟同行」の精神を継ぎ、心豊かで主体的、個性的な児童生徒の育成を旨とした「夢と知恵を育む」教育の創造に努める。」としています。

また、本校（明倫小学校）においても、「明倫館の学風」である「成徳達材」と「松陰教学精神の尊重」を教育の基底において学校運営を行っておりますが、私自身松陰先生の人となりをしつかり捉えているだろうかと自問することがよくあります。

さらに、子供たちは、松陰先生のことを毎朝朗唱したり「松陰読本」で松陰先生の生き方を学習しておりますが、松陰生誕の地で勤務できる私

たちには、松陰先生について研究し、その教えを教育現場での実践に生かしていくことが、課せられた課題であろうかと思っております。

折しも、本年度は第三回の開催年度であり、松陰の研究にご造詣の深い先生方から集中的にご指導がいただける機会をとらえ、入塾したところでございます。

今、教育現場におきましては、「心の教育・情の教育」を学校教育を推進する上での重要な基盤をなすものとしてとらえ、その実践に取り組んでおりますが、やがて迎える二十一世紀は、人間の生き方や心の持ち方が、さらに問われる時代になろうかと思えます。これから塾友と共に、松陰先生に学ぶものは何かじっくり研修し、考えていきたいと思えます。

終わりに、このような素晴らしい松陰研修塾を開設いただきました主催者にお礼を申し上げます。塾生代表の辞といたします。

基礎コース・三ヶ年在塾年間三回研修

祝開講

憤排啓発、待ちの精神を



山口県小・中・高等学校校長会代表
山口県高等学校長協会
理事長 吉村洋輔

いま、教育改革が盛んに叫ばれ、私達教職員の意識改革が問われている中で、本日、こうして意欲に燃えた先生方の御参加により、自主研究コースが開講されますこと、誠に意義深く心からお喜びを申し上げます。

さて、憤排啓発について述べる前に、以前、一、二回話したことがあるのですが、三段階のわかり方についてお話しします。

第一段階のわかり方は、授業中先生の説明を聞いて、なんとなくわかる。うん、わかった。しかし、帰って復習してみると、さっぱりわかっていない。そういうわかつたつもりというのが第一段階のわかり方です。

第二段階のわかり方は、その内容をよく理解し、友達によくわかるように説明することができる。そういうわかり方です。この第二段階のわかり方で満足してしまうのですが、もう一つ上の第三段階のわかり方にまでもって行きたいものです。

この第三段階のわかり方は、例えば、数学の問題を自分で解こうと思ってもわからない。一週間も

十日間も考えても解けない。苦しみ抜いた揚句、ふとある考えを思いつき、急ぎ机に向かい鉛筆を走らせてみると解けた、そのときの喜びったら胸がはり裂けるほどのです。

また、体育の授業で、鉄棒の蹴上がりが出来ない。他の者は容易にやっけるのに自分だけ出来ない。その恰好がおかしいので皆から笑われてしまう。くやしいので、夕方誰もいないときをねらって黙々と練習をする。何日も何日も練習しても出来ない。くやしい。繰り返し繰り返し練習をする。そうするうちに、一ヶ月、二ヶ月が過ぎて、ようやく出来るようになったときの喜び、これまた、涙が出るほどうれいものです。

このように、苦勞をして苦しんだ揚句に、わかつたときの喜び、出来たときの喜びは、感動を伴うもので、自分にも出来る力があるのだという自信と勇気を与えてくれるものです。芯底から生きて働く力となり、次の挑戦へとかきたる意欲へと繋がっていくものです。そういう苦しい体験の後に得ることのできる成就感、感動を伴

うわかり方が、第三段階のわかり方なのです。

この第三段階のわかり方をする体験を、子供たちに、学期に一回でもよい、年に一回でもよいから味わわせてやりたいものです。

そのためには、私達教師の指導の在り方を今一度見直してみることがあるのではと思っております。日頃、子供たちに、あれもこれもと教え過ぎていっているのではと思っております。

基礎的・基本的事項に関わる事柄については、徹底して徹しく教え込んでやる。そのかわり、思考力や判断力、表現力、実践力等の諸能力については、ゆったりとした指導計画のもとで、じっくり育てて行かなければなりません。

吉田松陰先生も從弟玉木彦介に与ふる書の中で、「憤排を待ちて而る後之れを啓発せんと欲するのみ」と言っておられる。

只、教えるのではなく、理解しようとして苦しみ、悶えるのを待つておもむろに教え導く、憤排啓発の大切さ、待ちの精神を説いておられます。

そうした意味で、この研修塾が、吉田松陰先生の精神に触れていたただ中で、これからの教育の在り方について見つめ直す契機になればと期待するものであります。実りの多い研修になりますことをご期待申し上げ、祝辞といたします。

夫れ志定まれば則ち氣壯なり

塾生代表の辞



第一回松陰研修塾自主研究コース
佐波郡徳地町立島地小学校

佐々木喜次

第一回松陰研修塾自主研究コース生を代表して、一言お礼を述べさせていただきます。

本日は山口県教育委員会教育長様始め、山口県小・中・高校関係の代表の校長先生方、塾長としてご指導いただき松永理事長様、並びに指導者の先生方には、公私共にご多忙な中を私たちがのために、ご列席下さいました誠に有り難うございました。

更に、励ましのお言葉を賜りましたこと対しまして、心から厚くお礼申し上げます。さきの松陰研修塾で、松陰教

学の根幹となる教育理念として、

一に志(言い換えれば自己の学習課題の確立)の重視

二に気力・気迫の重視

三に実証的な知識の重視

四に人間性豊かな指導・ふれあいの重視

ということについて学ばせていただきました。

このことは、現在、県教委が

推進を図っておられる「夢と知恵を育む教育」そのものであるといえるのではないのでしょうか。

教育に携わるものとして、この自主研修において松陰先生の遺文を学習することを通して自己の資質を高め、今後の教育に生かしていきたいと思っております。

また、この自主研修の機会を自分における生涯学習の一環として位置づけ、奥深い松陰の教

学を学び続けながら、郷土を愛する気持ちを持ち続けたいと考えています。

その意味で、研修塾に続いてこのような新たな学びの機会を与えていただいたことを感謝を申し上げて、塾生代表のお礼の言葉といたします。

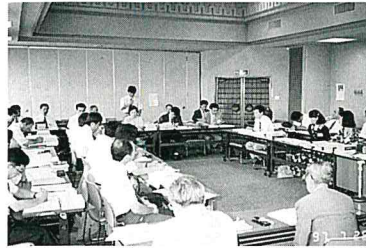


第一回松陰研修塾
自主研究コース
入塾生紹介

第三回松陰研修塾基礎コース開講

一 平成九年 七月二十六日 於 山口県教育会館

(3) 発表・座談会 (13:00~15:10) 吉田松陰から何を学ぼうとするか



司会者 萩市立椿東小学校 藤原董剛先生

(2) 講義 (10:00~12:00) 吉田松陰の生涯



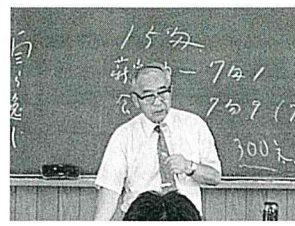
指導者 石原啓司先生

(1) 第 3 回松陰研修塾 基礎コース開講式



式辞 松永理事長

(3) 講義 (13:00~14:30) 野山獄における松陰 一獄中教化一



指導者 井町新熊先生

(2) (1) (第一日) 入所式・オリエンテーション 講義 (一〇:三〇~一二:〇〇) 松陰と杉家の人々 石原啓司先生

二 平成九年 八月二十九日~三十日 於 萩青年の家

(5) (4) 講義 (15:30~17:00) 今、あらためて松陰に学ぶもの 一志を育てる教育一



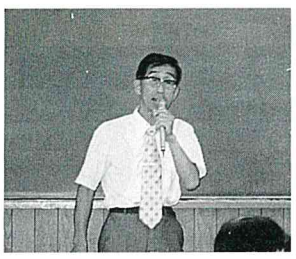
指導者 河村太市先生



(10) (9) 退所時・オリエンテーション (一六:三〇解散)

(8) 巡検 (一三:〇〇~一五:四〇) 塾生の自主企画によって推進

(7) (6) 講義 (8:50~10:20) 松陰と登波 講義 (一〇:三〇~一二:〇〇) 松下村塾の教育とその変遷 指導者 河村太市先生



指導者 松田輝夫先生

(5) (4) 発表・座談会 「松陰先生に学ぶ」自分にとって大切なもの、その生かし方 第一次 一六:二〇~一七:〇〇 第二次 一九:三〇~二〇:〇〇 司会 萩市立白水小学校 弘長純忠先生

(5) (4) 講義 (14:40~16:10) 「夢と知恵を育む」山口県教育の推進 一吉田松陰に学ぶもの一



指導者 見好 豊先生

退所時の施設総点検

既決定している平成十年度の巡検は、塾生全員そろって藩校明倫館の教育について、萩市立明倫小学校を研修会場にして、研修を深めることにしている。

平成十年度(第二次)及び平成十一年度(第三次)の研修計画の策定について それぞれ、前年度の研修中に塾生の意向をくみながら、次年度の年間計画を策定する。

(5) 閉会式・第二次について のオリエンテーション (一七:一〇~一七:二〇)

(4) 発表・座談会 「松陰先生に学ぶ」自分にとって大切なもの、その生かし方について (一五:一〇~一七:〇〇)

(3) 講義 (一三:〇〇~一五:〇〇) 吉田松陰の尊主(皇)思想 指導者 石原啓司先生

(2) (1) 開会式 (九:四〇~九:五〇) 講義 (一〇:〇〇~一二:〇〇) 松陰の師 一素行・宇右衛門・象山一 指導者 河村太市先生

三 平成十年 二月十四日 於 山口県教育会館

第一回松陰研修塾自主研究コース

自平成九年度
至平成十一年度

一 趣旨

子供たち一人一人は、本来生命力に満ち夢と希望に輝くかけがえない存在として、認識されている。この子供たちに我々は未来を託すのであるが、彼等の自己教育力を支援し、その可能性が豊かに瑞々しく開花することを熱望するものである。

今日、教育を取巻く環境はまことに厳しい現実があり、山積する課題や憂慮すべき事態も多い。幸いに、防長の先人たちは積重なる極度の艱難に正対して常に人材の育成を重視し、展望を拓くことに努めた誇り高い教育風土を今日に伝えている。

即ち、藩校明倫館を頂点に幅広い教育基盤を形成し、多様な教育活動が展開され時代を拓いてきた。とりわけ慕いよる若者たちの誘掖に明けくれた松陰主宰の松下村塾での教育は、教育の原型として今なお不滅である。この不易の教育精神について松陰の遺文等の研究を通して学びとり、山口県教育の更なる振興に寄与することを祈念し、ここに「第一回松陰研修塾自主研究コース」を開設し、共同研究を

二 主題

松陰教学の真髓に学び、明日の教育を拓く

三 主催

財団法人 松風会

共催 山口県中学校長会

山口県中学校長会

山口県中学校長協会

財団法人 山口県教育会

山口県教育委員会

山口県市教育委員会協議会

山口県町村教育委員会協議会

研究課程 三ヶ年在塾 毎年四回研修 通算十二回

中心資料 吉田松陰撰集

山口県教育史

補充資料 松風会で用意

研究方法 中心資料を用い、指導者を交えて遺文を読む

み深め、共同研究を推進・松陰ゆかりの地を巡検

五 第一回

平成九年五月二十四日

於山口ふるさと伝承センター

下田踏海に失敗した松陰は、

野山獄中の安政二年三月から

八月にかけて、踏海前後の様

様を「回顧録」として著す。

本遺文を読み、第三回研修

に「幽因録」を併せ読むこと

を通して、松陰の下田踏海に関する全体像にせまる。

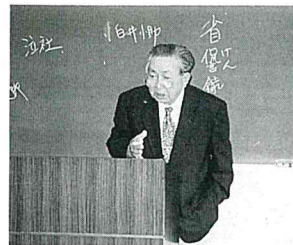
六 第二回 八月十七・十八日
於 豊北町阿川・滝部
豊浦町大河内ほか

(1) 第1回松陰研修塾 (9:30~9:50)
自主研究コース開講式



式辞 松永理事長

(2) 講義 (10:00~12:00)
「回顧録」を読む



指導者 石原啓司先生

(3) 「読み」を深めるための共同研究 (13:00~15:00)
(4) まとめ (15:15~16:15)



指導者 河村太市先生
石原啓司先生

(3) 北浦の地形をみて松陰としのぶ



豊北町阿川の日和山登頂記念
(松陰先生登臨の碑前にて)

(1) 〇「廻浦紀略」「烈婦登波の碑」「討賊始末」等を読み、また現地調査を通して兵学者松陰、松陰の人間観にせまる。
開会式 阿川八幡宮にて
講話 「廻浦紀略」と松陰

(5) 烈婦登波碑を調査し
登波に対する松陰をしのぶ



豊北町流部・滝部八幡宮の
石段下登波の碑をかこんで

講話

「烈婦登波の碑」について

(7) 講義 (15:30~17:00)
社会的弱者へのまなざし



指導者 河村太市先生

〇講義の内容
① 烈婦登波のこと
② 旅日記から一佐渡の鋳卒
蝦夷人種 第敏三郎
自主企画による巡検

七 (8) 第三回 十月二十五日
「幽因録」を読む
指導者 河村太市先生

八 第四回 十二月十三日
「留魂録」を読む
指導者 石原啓司先生

九 平成十年度の計画
① 「講孟余話」を読む 三回
② 塾生の自主企画巡検 一回

あとがき 本号は、今年度開講した基礎コース・自主研究コースを中心にご紹介しました。次号は、研究論文や「吉田松陰撰集」による個人研究について提案したいと思っております。

シヨン (二六:二〇~一七:〇〇)